

- 1 派遣期日 平成23年11月11日（金）
- 2 研修先 学校名 東京都江東区数矢小学校
所在地 東京都江東区富岡1丁目18-7
<http://www.koto.ed.jp/kazuya-sho/>

3 研修内容

平成22・23年度 江東区立教育委員会 研究協力校
研究主題 かかわりあいの中で伝え合い、高め合う子の育成
～ 学級活動を通して ～

<研究構想図>



(1) 学級活動を充実させるための取り組み

①意欲付けの工夫

- ・オリエンテーションの実施：「学級会とは」というテーマで全学級実施し、学級会への意識を変える。
- ・学級会コーナーの設置：学級会に関心をもたせる。
- ・話し合いの約束の掲示：話し合いがスムーズに、互いが気持ちよく話せるような環境づくりとして、ブロックごとに学年に応じた内容を教室に掲示する。
- ・教師の助言：みんなを納得させる意見や友達の考えを大切にした発言などを紹介する。（要素カードの掲示）

②自分の考えをもたせる工夫

- ・学級会カードの活用：学級会で話し合う内容について、事前に自分の考えをもつ。
意識を持って学級会に参加できるように、カードに書く。

③意見をまとめる工夫

- ・学級会ハンドブックの作成：学級会の進め方やスムーズな話し合い活動が行うために活用する。
- ・計画委員会の実施：意見の集計や整理，学級会の準備，司会グループの事前指導を行う。

(2) 児童の関わりを深めるための取り組み

- ・業間集会
- ・業間運動
- ・異学年との交流

集団意識や仲間意識が育ち、学校生活を楽しく元気に過ごすために行う。

(3) 公開授業参観

- ・全学級に、学級会のお知らせや学級会の進め方，話し合いの約束が掲示され，統一されていた。これは，「数矢小学校の職員だれもが同じように指導できる学級活動の確立」を基本コンセプトに研究されたものであることということが分かる。
- ・指導案は，学級活動(1)話し合いと係活動，学級活動(2)担任による学級指導の2つに内容を分かれていた。
- ・学年ごとに，研究主題に迫るための手だてが考えられていた。

＜高学年の例＞

意見のまとめ方の指導：多様な意見のよさを認めて決められるように，たくさんの意見がでてきたときのまとめ方の例を紹介した。学級会ハンドブックにも記載し，いつでも参考にできるようにした。

- ・授業の様子：児童は意欲的に自分の意見を伝え，聞く態度も良かった。たくさん出てきた意見をそれぞれのよい点を見つけて，一つに意見をまとめるアイデアを考え出す児童の姿が見られ，感心した。

(4) 東京学芸大学名誉教授 児島 邦宏先生のご講演

- ・集団形成や学習習慣が身につけていない子どもたちが多くいるので，もめ事が起きても折り合いをつけることができないのが現状である。だからこそ，今，子どもたちには話し合いの力を育てることが大切である。
- ・聞く・話すことを大事に指導し，話し合う機会をもつことで，みんなで意見や考えを話し合い，集団で決定する力を身につけることができる。

4 感想

- ・学校全体で統一した指導により，児童の学級会に対する意識や関心が高まっていることを感じた。研究の成果に「集団意識や規範意識の高まり」をあげていたが，児童が自分たちで話し合って決めたことからこそ，守らなくてはという良い意識へと変わっていったのだと思う。
- ・充実で活発な話し合い活動をするためには，事前に計画委員会の実施や児童への指導などにより時間がかかり大変と思いがちである。しかし，学級会や準備の回数を重ね，児童に体験させることで，話し合う力・考える力・自分の意見をもつ力を身につけることができることを，今回の研修により学ぶことができた。
- ・「話し合いの力は，教科の学習における学び合いの基礎になる」とご講演された児島先生がおっしゃっていた。教師が児童に話し合いの力を育む教材や学習場面（多面的な味方や意見を含んだもの，認知的な不調和を含んだものなど）を提供することが重要であると感じた。